熊本地域医療センターだより

院長　清住雄昭　　令和元年(2019年) 5月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311　FAX 096-362-0222

2019 5月号　通算168号

熊本地域医療センター理念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

CONTENTS

2面　新任医師あいさつ

3面　新任医師あいさつ　緩和ケア病棟ラウンド

4面　親栄会花見の宴

臨床研究を通じて社会に貢献する病院を目指します

副院長　柏原　光介

臨床研究という言葉を聞いてどんな印象を持たれるでしょうか？ストレートに申し上げれば、臨床研究は「患者さんを対象とした人体実験」です。人体実験という言葉にはネガティブなイメージがありますが、臨床研究は新しく開発された薬や治療法を患者さんに届けるために必要不可欠なものです。動物実験で治療効果が確認できたとしても、人体実験を行わなければヒトでの治療効果や副作用はわかりません。新しい薬や治療法は、臨床研究が行われて初めて厚生労働省の認可を経て患者さんに届けられます。

私が専門とする肺癌領域では、効率的かつ安全に肺癌を治療するための「肺癌診療ガイドライン」という手引きがあり、今までに行われた臨床研究の結果から導き出された治療が載っており毎年改訂されています。肺癌治療を行う医師はこの手引きに準じて治療を行うべきであり、より優れた治療確立のために臨床研究に参加すべきです。肺癌に限らず、他の領域でも臨床研究への参加は臨床医の務めと考えます。

臨床研究は人体実験であるからこそ厳格な倫理指針が遵守されるべきです。その倫理指針が文部科学省、厚生労働省によって告示された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」です。この倫理指針には、臨床研究の社会的および学術的な意義、科学的合理性、患者さんの負担・リスク・利益の総合的評価、倫理審査委員会による審査、患者さんへの十分な説明と自由意志による参加、社会的に弱い立場にある方への特別な配慮、個人情報の保護、研究の質及び透明性の確保、が謳われていましたが、罰則がありませんでした。その結果、降圧剤の臨床研究において10億円以上の寄付金が有名大学に流れ製薬会社に都合の良いデータが発表されるという臨床研究への信頼を大きく損なう大事件が起こってしまいました。この事件をきっかけとして臨床研究に関する法整備が行われ、2018年４月より「臨床研究法」が制定されました。臨床研究法の対象となるのは、おもに「製薬企業などから資金提供を受けて実施される臨床研究」と「未承認ならびに保険適応外医薬品を用いた臨床研究」であり「特定臨床研究」と呼ばれます（承認申請目的とした医薬品等の臨床試験は治験と呼ばれ臨床研究法の対象から外れます）。臨床研究法では、下記のような厳しい条件がつけられており、臨床研究を計画実行するためには莫大な時間と労力を必要とするようになりました。

①厚生労働大臣の認定を受けた認定臨床研究審査委員会での承認
②実施計画書を厚生労働大臣に提出
③厚生労働省が整備したデータベース（jRCT）に研究内容を登録
④研究中のモニタリング・監査
⑤患者さんへの健康被害などの補償
⑥利益相反（製薬会社と研究者の利害関係）の開示
⑦罰則規定（重大な違反については懲役3年以下もしくは300万円以下の罰金）

あまりの条件の厳しさに臨床研究の衰退を心配する声もありますが、国民の信頼を回復するためにしかたないことです。臨床研究を通じて社会に貢献する病院となるために副院長として邁進していく所存であります。そのためには、今まで以上に皆様方からの貴重な患者さんのご紹介が必要です。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

新任医師のご挨拶

Tomiyasu Shinjirou

外科部長　富安　真二朗

熊本労災病院より４年ぶりに戻ってきました。以前在籍していた３年間で熊本地域医療センターよりたくさんの患者さんとの出会い、職員の皆さんから目に見えない貢献を頂きました。これからはその恩返しができるように、微力ながら尽力してまいりたいと存じます。

前院長である廣田先生の掲げられた基本理念「かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。」を少しずつ実践していきたいと思っています。患者さんに診察・検査・治療をして貰ってよかったと思って頂けるのがまず一番大事ですので、それは他のスタッフと協力して患者さんに寄り添い、行っていきたいと思います。また、医師会の先生方に紹介してもらえるように、利用しやすい病院であるべきと考えています。そのためにはフットワークよく医師会の先生方と患者さんの受け渡しができるように努めていきたいと思います。なんなりと言って頂けたらと存じます。最後に医師会病院で働く皆がモチベーションを保ち、気持ちよく働きやすい環境作りも行っていきたいと考えています。

専門である肝胆膵癌の外科手術、内視鏡外科手術一般、化学療法を熊本地域医療センターのセールスポイントにできるよう、新しいことにチャレンジしつつ最大限の努力をしてまいる所存です。ご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申しあげます。

Okabe Hirohisa

外科　岡部　弘尚

４月１日より外科に赴任しました岡部と申します。旧熊本大学第二外科に入局し、済生会熊本病院、天草市民病院で研修を行い、熊本大学消化器外科にて大学院を卒業後、菊池恵楓園、２年間のピッツバーグ大学留学、九州大学、済生会熊本病院、熊本大学と研鑽を積んでまいりました。肝胆膵領域が専門ですが、消化管や乳腺手術、抗癌剤を用いた化学療法など、施設の特性に沿って必要な外科診療を行います。働き方改革の波で診療や後輩への教育など様々な工夫を求められる時代でありますが、診療の質はむしろ改善できるような方法を探していきたいと思っています。特に、肝胆膵領域の悪性腫瘍である肝臓癌・膵臓癌・胆道癌（胆管癌、胆嚢癌、乳頭部癌）、また境界悪性腫瘍に位置づけられる膵管内乳頭状粘液性腫瘍（IPMN）やカルチノイド・神経内分泌腫瘍といったものまでこれまで重点的に取り組んで参りました。最善の治療を提供できるよう、ベストを尽くして対応させていただきたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

Iwashita Hirofumi

消化器内科　岩下　博文

４月より消化器内科に赴任しました岩下博文と申します。

水俣市の出身で、熊大を平成11年に卒業後、大学病院、済生会病院、上天草総合病院、熊本労災病院、大牟田天領病院、水俣市立総合医療センター、公立玉名中央病院、くまもと森都総合病院を経て、こちらに赴任しました。

かれこれ数えると９病院目になりました。

こちらの病院は内視鏡検査が多く、早く慣れてゆきたいと思います。

皆さんと力を合わせて熊本の地域医療に貢献できますよう頑張りたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

※趣味：映画鑑賞
※こども：３人

Kikuchi Youko

放射線科　菊池 陽子

本年４月より放射線科医として赴任しました菊池陽子と申します。大分大学を卒業後、７年目になります。３月までは熊本大学病院に勤めていました。当院では画像診断、透視、CTC、IVRが主な業務内容となっています。画像診断ですが当院ではMRCPのオーダーが多いという印象です。迅速、正確、わかりやすいレポートの提供に近づけるよう努力致します。透視やCTCはこれまで経験数が少ないですので、いい機会を与えていただきました。 IVRは侵襲性が高いので入念な血管走行と基礎疾患、検査データの把握が大切と思って取り組みます。松川先生と矢村先生には熱心にご指導いただき、日々感謝と反省の繰り返しです。

当日検査のため来院された患者様のことで他科の先生にお電話しますと、すぐに放射線部に様子を見に来てくださることも多く、私も他科の先生からの情報収集を怠らない放射線科医を目指そうと思います。とにかく経験数を増やすことが一番と思っていますので、一日一生の精神で日々を過ごそうと思います。よろしくお願いします。

緩和ケアチーム病棟ラウンド

麻酔科・緩和ケア科　安部　英治

当院では、毎週水曜日午前10時半から３階北病棟を皮切りに全ての急性期病棟と回復支援病棟を、緩和ケアチームが約１時間かけて病棟ラウンド（以下、ラウンド）をしています。チームは緩和ケア科医師・緩和ケア病棟師長・緩和ケア認定看護師・薬剤師・理学／作業療法士・管理栄養士・患者支援室 MSW／相談員で構成され、多忙のなか時間を割いてほぼ全員でラウンドし、その場で意見交換しています。実際に患者さんやご家族にお会いすることは時間的に困難なので、主治医・病棟で困っている事や気になる事の「萬（よろず）相談」となっています。ラウンドの後には主治医とも密に連携をとりながら個別に患者さんやご家族とお会いしています。ラウンドを始めた頃はまだ志が高く（？）、正式に緩和ケアチーム介入を依頼してもらったり、オピオイド開始／増量した患者さんを薬剤部で事前にピックアップしたりと試行錯誤しました。しかし効率は非常に悪いですが、この「萬相談」というのが一番おおまかに病院全体における緩和ケアのニードの把握には向いていると実感しています。一般的に緩和ケアから連想する相談内容に加え、それぞれの患者さんが「病の軌跡」のどの段階にあるのかを把握したり、患者さんを支援しうるご家族・社会背景について言及したり、と相談内容は多彩です。どこまでそれぞれの患者さんの診療そして人生に寄与できているか甚だ自信はありませんが、いましばらくはこの効率は悪い「萬相談」のスタンスを続けて、患者さんそしてご家族の支援の一助になればと考えています。

次回の 熊本地域医療センター勉強会 のお知らせ

日時／５月27日（月）　19時開始

場所／熊本地域医療センター２階 多目的ルーム

糖尿病代謝内科 内科系診療部長･代謝内科部長　笹原 誉之先生

「簡便になった高齢者糖尿病患者の認知能力やADLの評価」

CC 29: 認知能の障害

3月29日開催

花見の宴

親栄会　西　奈津子

平成31年３月29日、今年の花見の宴は例年以上に感慨深いものとなりました。

期待と不安に胸を躍らせるフレッシュな顔ぶれ、長年にわたる職務を勤め上げ、皆に惜しまれて杯を交わす熟練の方々。新たな一歩を踏み出す仲間を迎え、そして見送る私たち。

始まりと終わりが交差するこの季節は毎回そわそわした気分で過ごすのですが、平成の御代から令和へと、今回は特に桜とともに訪れる新しい時代の足音を多くの人が肌で感じたことと思います。ただただ美しく咲き誇る桜に、私たちはなぜ特別な感情を寄せるのでしょう。

ちょうど一年前、緊張した面持ちで壇上に立った新人さんが、今年は先輩らしく新たな後輩をサポートし挨拶に廻っていました。苦楽を共にした仲間と思い出話に花を咲かせながら、とびきりの笑顔にちょっぴり涙を浮かべる、賑やかでそれでいて少し寂しいひとときを感慨深く眺めさせていただきました。

私も今回の花見の宴をもって３年間務めた親栄会役員から卒業することとなりました。

お忙しい中ご出席いただきました来賓の先生方、職員の

方々、そして平成最後の１年間、数々のイベントを縁の下から一生懸命支えてくださった親栄会の役員の皆さま、本当に感謝申し上げます、ありがとうございました。来る一年が、どうか良い年でありますように。

院 長:清住 雄昭　発行責任者:地域医療連携室長　柳 文治
熊本地域医療センター　〒860-0811　熊本市中央区本荘5-16-10
TEL(代表)096-363-3311/FAX 096-362-0222
TEL(直通)096-366-1323/FAX 096-363-3416
E-mail:renkei@krmc.or.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ:http://krmc.or.jp

編集後記

Y@令和となり最初の熊本地域医療センターだよりをお届けします。10連休も終わり、新緑の季節になりました。米国では大谷選手が復活し活躍しています。当院では、新しい仲間も病院に溶け込みみんな張り切っています。令和元年もよろしくお願いいたします

S@先日、とある番組で新元号を当てるまで帰れないという企画があり、98時間40分を要し見事「令和」を言い当てました。様々なヒントがあったものの、正解に辿り着くまでの道のりは見ていて感慨深いものがありました。